

じゃがいもよ、
どこへいく

ゲノム編集食品や遺伝子組み換え食品など、
その先頭を行くじゃがいも。有機農業を営んで45年、
北海道でじゃがいもを育てる金井正さんを訪ね、
今、私たちに必要なことを見つめました。

収穫したじゃがいもは大きな袋に入れ、冬を越す貯蔵のため、倉庫へ運びます。一つでも畑に残っているじゃがいもを見つけると、金井さんは拾って入れてあげます。

草を発酵させて作った堆肥の山でも、混じったかぼちゃの種が芽を出しています。



「畑とは長い付き合いです。それでも地力や天候などで常に状況が変わるので、農業とは難しいですね。」



幾千ものしわに土がなじんだ手。金井さんの手は大きくて温かい。

2019年10月1日、厚生労働省の発表により、ゲノム編集食品^{※1}の

流通・販売が可能になりました。現在、アミノ酸の一種「GABA^{キヤバ}」を増やしたトマトや、芽の毒を減らし、かつ発芽を制御したじゃがいも、可食部を増やした真ダイなどが開発されてお

「たまよい続ける
食と農業」

人生をさかすかに
人生をさかすかに



1 完熟して茎が枯れたら収穫の時期。
2 連作障害を防ぐ「輪作」で、小豆やかぼちゃも育てています。
3 開拓時代から北海道で農業を営む金井さん。手書きの年表の下には、以前、地域の鍛冶屋が作り、金井さんが大事に使ってきた農機具が綺麗に並んでいます。

細長い形が印象的。
粘質でなめらか
北海道・
金井さんのメークイン
1020
500g 328円 (税込354円)
2795
800g 428円 (税込462円)
Ⓧ金井修一

ほくほくの粉質。
じゃがいもの代表格
北海道・
金井さんの男爵
2794
500g 268円 (税込289円)
1021
800g 348円 (税込376円)
Ⓧ金井修一

粘質で、果肉が黄色い
「黄爵(とうや)」
北海道・
金井さんのとうや(じゃがいも)
1022
500g 258円 (税込279円)
2796
800g 338円 (税込365円)
Ⓧ金井修一

※写真は500gのイメージです。 ※小さいもの、皮荒れ、一部傷のあるものをお届け場合があります。
※同時配布のカタログ『タッチオーネ』とお買い物サイト147号も合わせてご覧ください。



息子の修一さん、孫の舞子さん、妻のとき子さん、金井正さん、修一さんの妻の里恵子さん(左から)。皆で収穫機に乗り、草や石などを丁寧に手で取り除きます。



日が昇って暮れるまで、ある時は暮れた後も、収穫作業を行います。

Photo:Taro Terasawa Text:Maiko Oasa Design:Better Days

の流通・販売が始まるといわれています。また、すでに私たちの食生活に身をひそめている遺伝子組み換え食品^{※2}は、大豆やじゃがいもを含む8品目が流通されています。もちろん、世界の飢餓への対策や少数の生産者における生産性の向上などを挙げながら、短期間で多くの量を得られるとされていますが、一方で、環境や人体における安全性は確認できておらず、疑問と不安の声も多く寄せられている状況です。

「大事な食べ物のことが、考える間もなく決められていく世の中になってきていますね。議論もされず、こうした現状に気づく人も少なくなってきたように感じます」。収穫したじゃがいもが入った大きな袋を整えながら話すのは、開拓時代から130年、北海道でじゃがいもを栽培す

「草が生えなくなったらおしまいだ」

る金井正さん(北海道江別市)。大地を守る会では設立時から実に45年間、私たちにじゃがいもを届けている生産者です。金井さんも憂う、食と農業で効率性が重視される今、私たちに必要なことは何でしょうか。

金井さんが30歳の頃でした。「それまでは農業・化学肥料を使ってきました。当時、育てていた稲に初めて農業を使ったらドロオイムシがいなくなりました。これは効果ありだと思っていました。でもその後、ドロオイムシの抵抗性が高まり、まったく効かなくなりました。そのうち父と、畑仕事を一緒にしていた馬の体調も悪くなったんです」。農業のこわさ

については明確にされていません。不明であることも含めてこわいと感じた金井さんは、有機農業を始めたのです。

完全して枯れた茎がざらりと並ぶ、収穫直前のじゃがいも畑。「じゃがいもを収穫したら、その分収穫されて疲れた畑に栄養をお返ししてあげてあげます」。金井さんは隣りの畑に足を運びます。「この畑を含めて耕作地の30%で毎年、土にすきこむと栄養になる『緑肥』として燕麦^{えんばく}を育てています。この1年間の畑はお金にならない。でも、必ず地方が蘇り、持続的に再生産が可能なんです。収穫直前の畑に視線を戻すと、草が青々と生えていることに気づきます。「スベリヒユやハコベ、アカザなど、これらも土にすきこむと畑にとって栄養補給になるんですよ。伸びすぎ

農業はいのちを守る仕事

ると機械にからまって収穫にも時間がかかるけれど、畑に雑草がろくに生えなくなったらおしまいだ」。収穫中の畑では、土に棲まう生き物をついばもうと鳥が飛び交い、太陽の光が降り注ぐ土から掘り起こされたじゃがいもは温かい。すべてが生きて循環しています。

畑の隣りには、河川敷をはじめ周りの地域からも集まった草が山になっていました。2年かけて、微生物の働きで発酵させて堆肥にするのです。「いつの間にか世の中は手間を省くようになってしまったけれど、農業はそうしてはいけない。農業はいのちを守る仕事で、食べ物には神聖

なものだからです。生産者としての誇りが大切です。でも今、その付加価値が気づかれないことが多いと感じています。このままだと取り返しのつかないことになるかもしれない。生産者、流通関係者、消費者が三位一体であればこそ、安心できる食べ物を安定的に得ることができるとは思いません。じゃがいもも喜びます」。金井さんが「塩煮」と呼び毎日食べている粉吹き芋は、まさに「生きた」。じゃがいもの味わいでした。

今、私たちに必要なこと。それは、自然が巡る畑、そしてそれに寄り添う生産者の声に耳を澄ませることではないのでしょうか。このじゃがいもを食べてみてください。金井さんのじゃがいもが、きつとまずい教えてくれます。



「原点は土ですよ。うちの土は生きた土。捨てるのはさみしいので、ある時は鉢などに入れてあげてくださいね」

※1 遺伝子を狙った場所での切り、変異を起こさせて作った食品。現在、日本で流通させる場合、厚生労働省への届け出表示は義務付けられていない。
※2 ヨーロッパでは遺伝子組み換え食品同様、規制対象としている。
※3 厚生労働省「遺伝子組み換え食品の安全性について」参考

イベント



編集後記 ↓ ゲノム編集、遺伝子組み換え、さらには見た目や流通の利便性を重視した商品ルールなどが多くなってきている今、有機農業を長年営んできた生産者はどのように考えているのか。それを知り、私たちに今、必要なことは何かを考えてみようと思ってきました。(編集部・大麻)

作って食べて、女性生産者と交流
農家スイーツでおしゃべり会
 2019.12.12 (木) 13:30~15:30



お米や枝豆、ぶどうなどを育てているおきたま興農舎(山形県東置賜郡高島町)から生産者の小林和香子さんをお迎えし、農家スイーツと一緒に作り、食べて交流します。好評のお餅を使ったスティック海苔巻きや、きな粉ねじりなどを作る予定です。

DATA
会場………てくのかわさき 調理実習室 (神奈川県川崎市)
 ※JR南武線「武蔵溝ノ口駅」、東急田園都市線「溝の口駅」より徒歩5分
講師………おきたま興農舎・小林和香子さん
参加費………300円 ※3歳以下は無料です。
定員………24名
申込締切…11月24日(日)
主催………大地を守る会 港北大地サークル



今年2月に開催した社内イベントにも参加して下さった和香子さん(中央)。料理は人をつなげます。

今年の講師は中嶋康博さんです
アジア農民元気大学 年末特別講演・公開教授会
 2019.12.14 (土) 15:00~19:00

アジア農民元気大学は「田畑が教室で農民が教授」という概念で、大地を守る会が立ち上げた架空の大学。今年の年末特別講演は、東京大学大学院農学生命科学研究科教授の中嶋康博さんに、「令和時代の日本の農業を考える」という演題でお話しいただきます。中嶋先生の専門分野は農業経済学、フードシステム論です。現代の農業問題は複雑であり、消費者への対応や食品産業との連携などに配慮しながら政策を検討しなければ解決できません。そこで理論と現場認識に基づいた「フードシステム」の発想が求められます。講演後の17時からは、大地を守る会の生産者など「教授」が近況を報告する公開教授会も行います。

DATA
会場………オイシックス・ラ・大地 Osaki Farm 大会議室(品川区)
 ※JR「大崎駅」南改札口より徒歩5分
講師………東京大学大学院教授・中嶋康博さん
参加費………無料
定員………50名
申込締切…11月29日(金)
主催………大地を守る会 アジア農民元気大学

令和元年台風第15号による産地の被害状況と支援報告

このたびの台風15号・19号で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。大地を守る会の生産者にも多くの被害が出ました。ライフラインの復旧に時間がかかったことはもちろん、ハウスや建物の全壊、作物の全滅・破れ・傷などが発生しました。すべての復旧にはかなりの労力がかかる状況です。大地を守る会は9月10日より、被災された生産者を支援する目的で義援金の募集を開始しました。皆様のご協力で、1,750,811円(うち「大地を守る未来募金(1口500円)」が406,500円)が集まりました。誠にありがとうございました。義援金や支援商品販売、授農など支援については、当社のホームページなどでお知らせ、ご報告させていただきます。引き続き温かいご協力をよろしくお願いいたします。

1 ハウスは骨組みまで壊れ、全壊した生産者もいます。

2 電柱も傾いています。

3 里芋の大きな葉は破れ、ほぼ姿を残していません。(千葉県山武市)

開催しました! / イベントレポート

祝! 第30回 大地を守る会の稲作体験

田植え 2019.5.19(日) 草取り1回目 2019.6.9(日)
 草取り2回目 2019.7.7(日) 稲刈り 2019.9.15(日)

さんぶ野菜ネットワーク・佐藤秀雄さんの田んぼ(千葉県山武市)

田植えには、東京や千葉、神奈川などさまざまなエリアからの参加者総勢110名ほどが集まり、小さなお子さんから大人までが裸足で田んぼを楽しみました。草取りでは蒸し暑い中、雑草を取り除きながらお米の成長を見守りました。そして収穫。台風15号の影響が心配されましたが、生産者の皆様のご協力で、今年も無事に収穫ができました。温かい言葉をかけたり、水や保存食など支援物資を持参したりして下さった参加者の皆さんから、生産者も元気がもたらえたようです。

雑草、こんなに取ったよ!

みんなで一緒に田植え。

台風15号の影響で周りの田んぼは稲が倒れていましたが、稲作体験の田んぼの稲はしっかりと起きていました。生産者のご協力で収穫もできました。

お申込みはWEB
 または右記申込書を
 注文書と一緒に
 ご提出ください

大地を守る会 イベント 検索

お問い合わせ
 オイシックス・ラ・大地
 ソーシャルコミュニケーション部
 TEL 050-5306-8513
 E-mail csr@member.daichi.or.jp

注意事項
 当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報をお申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行業者に業務委託する場合があります。この場合、個人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuha.daichi-m.co.jp/information/8>

2019年11月号 イベント参加申込書

ソーシャルコミュニケーション部行

イベント名				参加人数	会員番号						
参加者の氏名(フリガナ)				性別	年齢・学年(生年月日)	アレルギーの有無		参加者の氏名(フリガナ)	性別	年齢・学年(生年月日)	アレルギーの有無
メールアドレス(事前連絡が可能で添付ファイルが受信可能なもの)				携帯電話番号(当日連絡が可能なもの)							

*ご家族の場合は代表者分のみをご記入ください。

備考(会員として登録された「住所」と異なる方がいらっしゃる場合はその方の住所、他連絡事項がある場合はその旨をご記入ください。)

発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
 東京都品川区大崎1-11-2
 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
 TEL 050-5306-8513

*複数のイベントにお申込みされる場合や記入しきれない場合は、「連絡便」などに必要事項を明記の上、ご提出ください。